

第10回 研究部会 報告

1 第9期中核教員研修のまとめ・報告

『情報の収集、整理・分析の工夫』

①各校の研究報告

○東広島市立西条小学校

・情報の収集の過程の充実に向けて

①「課題の設定」における課題を解決する中で、知識・技能を確実に身に付けさせる。

②問いをつなげることで1時間1時間の関連を図る。

・整理・分析の過程の充実に向けて

①習得した知識・技能を活用し、さらに理解を深めさせる。

②習得した知識を関連させ、新たな見方や考え方に気づかせる。

③生活に活用する視点をもたせる。

②上智大学 奈須 教授より

○教材研究・素材研究をしっかりと

・授業をする前にその教材で生徒にどんな力をつけたいのかを明確にしておく。ここがはっきりしていないと生徒は何をしていいか戸惑い、生活で発揮できるような力がつかない(嘘っぽい授業になる)。

○社会に出た時に通用する力をつける

・学校でやった学習が学校の中だけで終わってしまうと意味がない。社会に出たときに通用するような表現力、説明力、コミュニケーション力を授業でつけさせる。

○深い学びの重要性

・教科書の内容をすべて終わらせることに必死になって、授業をどんどん先に進むと浅い学びで終わってしまう。時には、一つの単元で深くもぐったり、高い壁を乗り越えさせること(深い学び)で達成感や主体性を持つことになる。

そうすれば、あとは生徒が自ら進んで学習するようになり、逆に早く授業が進むこともある。

2 来年度に向けて①本校で育成したい資質・能力の精選

①現在は以下の11個・これを、各項目1～2個に絞り、その資質・能力に焦点化して各教科の授業や、行事や総合的な学習の時間など学校生活のあらゆる場面で育成していく。

【知識】【スキル】①課題解決能力 ②知識・情報活用能力 ③表現力 ④コミュニケーション能力 【意欲・態度】⑤協調性・柔軟性 ⑥責任感 ⑦主体性・積極性 【価値観・倫理観】⑧自己理解 ⑨共感力 ⑩公共心 ⑪人としての思いやり

②資質・能力の評価について

①で定めた資質・能力について、生徒の姿がどのようになればよいかという『評価基準』を作成する必要がある。数値としてみとれないものが多いので、行動や思考レベルについて評価できる『ルーブリック』作成が必要である。また、その評価をいつ、どの場面で、どのように行うかといった評価方法も検討事項である。

③教科の授業の見直し

○教科の授業において主体的に生徒が学習する場面を確保する。個人思考で考えたことをペアで伝え合ったり、グループで練りあう活動を通して思考が深まるし、表現力や共感力が身に着く。

④総合的な学習の時間の見直し

○大きなテーマを設定し、それに向けて生徒が主体的に活動していくような総合にしていく。今までの総合のような、『職場体験』や『修学旅行』、『保育実習』など行事ありきで単元を設定するのではなく、生徒が主体的に課題に取り組んでいけるような単元にする。